

『ファクターX』、西浦博教授が報告 「考察すると見えてきた“4つ”の事実」
まだ根拠の不確かな楽観主義は危険

残念ながら、日本を含めて、これまで低リスクを謳歌してきたアジアの流行状況が芳しくありません。私にとっても、一時的にせよ、台湾で2次感染の連鎖が止めにくい状況が生じるのは想定外でした。

予防接種の見込みに関して言えば、日本は国民の mRNA ワクチンが時間の遅れこそあれ、確保されそうであるという極めて特別な状況にあり、多くの発展途上国や中進国は中国から不活化ワクチンを少数だけ輸入して接種をしてきた、という程度の状況にあります。

いまアジアの中で、日本という国の責任はどうあるべきでしょうか。一国の総理大臣が、大変な流行中に米国にまで渡り、ワクチンをより多く確保することが流行拡大中のアジアに誇れる行為だったのかどうか、実は国民を守るべき本感染症の科学的分析を提供する立場にいる身ですが、疑問を感じています。

目を覆いたくなる惨状にあるインドには、COVAX(COVID-19 ワクチンへの公平なアクセスを目指した国連組織を中心とする取り組み)を通じて1億3800万ドーズが提供されましたが、人口規模に比して少なすぎる状態です。

もちろん、日本の状況を良くするために mRNA ワクチンを確保することは間違いなく重要なことです。しかし、こうやって国際的視点に立って落ち着いて眺めると、米国に行っても追加の供給を要請し、それを利用して有利な政治を展開しようという国に、果たして五輪を開催する資格があるのでしょうか。

私は倫理的問題を包含する矛盾に大きな悩みを抱えながら、1人の日本人として、研究者として、そして医療者としてデータを見て苦しんでいます。国内の医療体制や国際的なリスクを鑑みると、日本には、日本人としての良心を示し、ハイリスクイベントを断固として強行しない勇気が求められているのではないかと思います。

パンデミックは明らかに中盤を迎えています。少なくとも、その中で潜在的なリスクが明らかとなりつつあり、感染者数を少なく保つことの必要性が確かとなりました。流行対策は続きます。